

第5章 観光振興の基本理念と将来像

1. 基本理念

基本理念は、「柳川市の将来像」を実現する上で、行政と市民一人ひとりがそれぞれの立場で大切にしなければならない考え方であり、観光振興の姿勢、心構えを示したものです。

■水郷・柳川のまちづくり（いやしとやすらぎの提供）

本市は、九州最大の河川、筑後川と矢部川に挟まれ有明海を望む詩情と情緒にあふれるたたずまいを見せる水の郷です。そこに住む市民が、今に残る柳川らしい「景観」、「まち並み」、「掘割」がもたらす癒しや安らぎ、快適さを再認識し、これらの恩恵を後世の人々が享受できるよう、より長期的視点に立った観光地域づくりを進めます。

■感動と創造のまちづくり（地域の活性化と満足度の高いサービスの提供）

地域の活性化は、市民自らが地域の歴史遺産や文化を学び、理解を深め、住みよいまちづくりを目指すことによって観光客との交流やふれあいの機会が増え、まちのにぎわいや活気を生み出すための活動を活発にすることです。観光振興ではリピーターを増やすことが非常に重要ですが、そのためには観光客が感動するまちでなければなりません。感動は観光客が予想していた以上のサービスやおもてなし、魅力に出会った時に生まれるものです。その結果、観光客の一層の満足度向上が期待でき、地域市民が自信と誇りを持てるまちづくりの実現につながり、地域活性化が実現できます。本市は、“やすらぎ”、“ゆったり”、“のんびり”、“ぐるり”、“わくわく”感で人々に「感動」を与え、それらを観光まちづくりのキーワードとして、新しい個性や価値を創造します。

■地域力のまちづくり（人材育成と協働）

観光振興のためには、地域の持てる自然や人的・物的資源の総合力としての「地域力」^(注)を最大限に活用することが重要です。市民、観光事業者、行政等の観光振興の担い手が他の産業とも協働・連携をし、地域資源を発掘し、観光資源としてさらに磨き上げていくことによって、本市の観光地としての魅力がグレードアップしていくものと考えます。また、人材育成も大きな課題です。これからの観光は、市場調査等のマーケティングとプロモーション活動、まちづくり活動、経営・運営のマネジメント活動等、様々な分野にまたがる総合的な取り組みが必要とされています。地域、教育機関、観光産業が連携して、魅力ある観光地づくりをマネジメントする人材、国際競争力を備えた観光関連産業を担う人材を育成します。

(注) 地域力は、市民や組織が地域の公共的、社会的課題に気づき、各主体が自律的に、もしくは協働しながら地域課題を解決したり、地域の価値を創出したりする力です。

2. 将来像

本市の基本理念をもとに、将来像を以下のように設定しました。この将来像は、10年後を見据えて、地域の個性や資源を活かしつつ課題を解決しながら実現していく「柳川市の将来の姿」を示したものです。



【将来像の説明】

市民参加による本市全域の地域固有の資源の活用と大都市近郊にありながら“癒し”と“安らぎ”を与える豊かな自然を活かして、観光客との交流を深めるにぎわいと活力あるまちづくり、『観光・交流都市「水郷・柳川」』をつくることを表現しています。



中島祇園



日本の道百選